

TOKYO

東京会場
開催スケジュール

■ タイム・テーブル (全指定席 各回定員入替制)

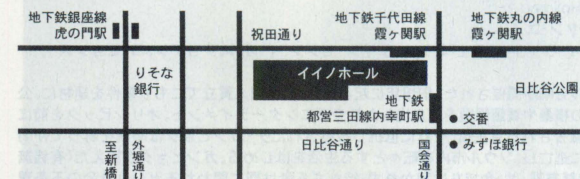
日付	開場	開演	作品名
8月18日(土)	13:00	13:30	『ホリデイ』(120分)
	16:30	17:00	『ラジオ・スター』(115分)
8月19日(日)	10:45	11:15	『青燕』(133分)
	14:30	15:00	『懐かしの庭』(112分)
	18:00		ゲストとの交流パーティー(120分)

※ ゲストが来場する作品では、舞台挨拶またはティーチン(質疑応答)を行います。
※ 上映開始後のご入場はかたくお断りいたします。
※ 上映作品・ゲスト・開演時間などは、やむを得ない事情により変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

■ ゲスト(予定)
ヤン・ユノ(『ホリデイ』監督) ユン・ジョンチャン(『青燕』監督)
イム・サンズ(『懐かしの庭』監督)

■ チケット
全席指定 各作品 ¥1,500均一(前売・当日とも)
前売りは、7月中旬より8月16日(木)まで、全国のチケットびあ(TEL 0570-02-9999 Pコード:553-101)、@びあ電子チケットびあ(http://t.pia.co.jp/)、ファミリーマート、サンクスにて発売。
チケットの当日販売は、両日とも1回目上映作品の開場30分前より開始いたします。ただしチケット完売により当日販売なしとする場合もございます。

■ 会場
イイノホール
東京都千代田区内幸町2-1-1 飯野ビル7階 TEL 03-3506-3251
地下鉄千代田線/日比谷線/丸の内線「霞ヶ関」駅、銀座線「虎の門」駅、三田線「内幸町」駅下車、徒歩5分以内。



■ ゲストとの交流パーティー
日時:8月19日(日) 18:00~20:00
会場:エクセルシオール・カフェ虎ノ門店
東京都港区虎ノ門1-1-28 東陶虎ノ門ビル1F TEL 03-3519-5980
地下鉄銀座線「虎ノ門」駅、8番出口すぐ(イイノホールから徒歩7分)
パーティー券:¥3,500(食事・ドリンク・アルコールあり/定員80名ほど)
※ パーティー券の前売りは、8月4日(土)より8月16日(木)まで、全国のチケットびあ(Pコード:553-103)、@びあ電子チケットびあ、ファミリーマート、サンクスにて発売。余裕がある場合はイイノホール窓口にて当日券を販売いたします。

■ お問い合わせ
チケットのお問い合わせ:チケットびあ TEL 0570-02-9999
チケット以外のお問い合わせ:シネマコリア東京事務局(株式会社スキップ内)
TEL 03-3437-3025

NAGOYA

名古屋会場
開催スケジュール

■ タイム・テーブル (全自由席 各回入替制)

日付	開場	開演	作品名
8月25日(土)	15:10	15:30	『ラジオ・スター』(115分)
	17:40	18:00	『ホリデイ』(120分)
8月26日(日)	10:40	11:00	『青燕』(133分)
	13:30		アジアスーパーシネセンター presents 『韓国映画を語ろう! (仮題)』(90分) ゲスト 寺脇研氏(元・文化庁文化部長、映画評論家)
	15:15	15:35	『懐かしの庭』(112分)

※ 各開場時間より、チケットに印字された整理番号順にご入場いただきます。ただし、開場に遅れた場合、整理番号は無効となります。
※ 上映開始後のご入場はかたくお断りいたします。
※ 上映作品・ゲスト・開演時間などは、やむを得ない事情により変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。
※ 8/26のトークイベントについては、アジアスーパーシネセンター(TEL 052-453-3110)にお問い合わせ下さい。

■ チケット
整理番号付き日時指定チケット 各作品 ¥1,400均一(前売・当日とも)
前売りは、7月下旬より、シネマスコレ、全国のチケットびあ(TEL 0570-02-9999 Pコード:553-104)、@びあ電子チケットびあ(http://t.pia.co.jp/)、ファミリーマート、サンクスにて発売。
チケットの当日販売は、両日とも1回目上映作品の開場30分前より開始いたします。

■ 会場
愛知芸術文化センター 12階 アートスペースA
愛知県名古屋市東区東桜1-13-2
地下鉄東山線/名城線「栄」駅下車、東へ徒歩2分(オアシス21から地下連絡通路または2F連絡橋経由)



■ お問い合わせ
シネマスコレ TEL 052-452-6036

OSAKA

大阪会場

9月1日(土)・2日(日) 第七藝術劇場にて開催!

■ お問い合わせ
第七藝術劇場 TEL 06-6302-2073

ADVERTISEMENT 01



韓国シネマコレクション
1995-2006

好評発売中
B5判/キネ旬ムック
定価:2,310円(税込)

「八月のクリスマス」、「シユリ」、「猟奇的な彼女」、「四月の雪」...名作・話題作から新作まで650本以上の詳細なデータを収録。この一冊で韓国映画のすべてが分かる、決定版データベース!



パク・チャヌクの
モンタージュ

8月末発売予定
A5判/キネ旬ムック
予価:2,940円(税込)

韓国映画の枠を越え、映画作家として世界から注目を集めるパク・チャヌク。大ヒット作「JSA」「オールド・ボーイ」の制作日誌、彼が偏愛する監督と作品の評論、エッセイなどをまとめた著書が、遂に完成!



韓国テレビドラマ
コレクション 2007

好評発売中
A5判/キネ旬ムック
定価:1,995円(税込)

『フルハウス』『LEGEND-太王四神記-』など、日本でお馴染みの作品から韓国で放送予定の新作まで、主に1997年から2007年までに放送された650本以上を収録! 韓国ドラマファン必携の完全データベース。

ご注文・お求めは
お近くの書店にて
キネ旬報社 〒107-8563 東京都港区赤坂4-9-17 赤坂第一ビル
TEL 03-6439-6462 FAX 03-6439-6489 http://www.kinejun.com

ADVERTISEMENT 02

8月のMnet Cinema~週末は韓国映画



© Samsung Venture Investment Corp.

■ MnetはスカイパーフェクTV!(792CH)、ケーブルテレビ他で視聴可能
月額視聴料 1,575円(税込)

■ プログラムの詳細はMnetホームページをチェック
http://www.mnetjapan.com

Mnet Mnetカスタマー TEL:03-3502-3141 (受付時間 平日10:00-18:00)



2007

TOKYO

8/18(土)&19(日) 東京: イイノホール

NAGOYA

8/25(土)&26(日) 名古屋: 愛知芸術文化センター 12階 アートスペースA

OSAKA

9/1(土)&2(日) 大阪: 第七藝術劇場

■ 上映作品

『懐かしの庭』『ラジオ・スター』『ホリデイ』『青燕』

■ 主催 シネマコリア

特別協力 シネマスコレ、アジアスーパーシネセンター / 運営協力 株式会社スキップ / 会場協力 第七藝術劇場
協力 CJ Media Japan 株式会社(Mnet)、有限会社カームズ、KOTENHITS!
作品提供 Lotte Entertainment、CINECLICK ASIA、CJ Entertainment / 字幕制作 有限会社ホワイトライン

■ お問い合わせ

東京会場:シネマコリア東京事務局(株式会社スキップ内) TEL 03-3437-3025
名古屋会場:シネマスコレ TEL 052-452-6036
大阪会場:第七藝術劇場 TEL 06-6302-2073

■ 公式サイト

http://cinemakorea.org/filmfes/

CINEMA
KOREA

CINEMA KOREA 2007

「映画の上映を通じて、日韓の相互理解と文化交流を促進させる」ことを目的に、1998年に設立されたシネマコリアは、息の長いミニ韓国映画祭として、多くのファンから支持を得てまいりました。これまで紹介してきた作品は、日本初公開作や未配給作を中心におよそ50作品。『フラガール』の李相日、『グエムル ー漢江の怪物ー』のポン・ジュノ、『トンマッコルへようこそ』のパク・クァンヒョン、『王の男』のイ・ジュニクといった有名監督達のデビュー作などいも早く上映しており、「新たな才能の発見の場」としてご好評いただいております。

設立9年目となる本年は東京・名古屋・大阪で開催。韓国の近現代史を描いた作品を取

り揃え、「もっと知りたい。韓国」をキーワードに、韓国の社会・文化・歴史・国民性に、よりディープにアプローチしてまいります。植民地時代の苦悩、激動の80年代、そして現代社会の悩み…。観客の皆様には、映画を通して韓国社会と向き合い、多様でリアルな姿を感じとっていただけるものと考えております。

なお、今年も東京会場には上映作品の監督が勢揃い。ティーチインの他、初めての試みとして観客との交流パーティーも予定しております。また、名古屋会場には昨年まで文化庁文化部長として日韓映画交流に尽力されてきた寺脇研さんをお迎えし、様々なお話を伺います。「観客とゲストの距離が最も近い映画祭」と評されるシネマコリアに、どうぞご期待下さい。

「もっと知りたい。韓国」

The Old Garden / Radio Star / Holiday / Blue Swallow



『懐かしの庭』

日本初公開

韓国／2007年／112分／35mm／2.35:1／color／Dolby SRD／字幕翻訳 朴理恵
英題 The Old Garden
監督 イム・サンズ
出演 ヨム・ジョンア、チ・ジニ、ユン・ヨジョン

1980年代、民主化運動の時代の青春と愛のかたちを描いた情感溢れる感動作。学生時代、光州民主化運動に参加したかどで収監されていたオ・ヒョヌが、17年ぶりに刑務所を出る。逃亡生活中、彼をかくまってくれた女性ハン・ユニは既に亡くなっていた。何もかも変わってしまった韓国社会。ヒョヌは自らの失われた青春の軌跡をたどる。民主化運動のリーダーであり、訪北したため獄中生活を送った経験も持つ人気作家、黄皙暎(ファン・ソギョン)の同名小説を映画化した作品。

イム・サンズ 『懐かしの庭』監督

1962年生まれ。延世大学社会学科、韓国映画アカデミー卒。1998年に『ディナーの後に』で監督デビュー。その後も不良少年・少女を描いた『ティーズ』(2001)、家族崩壊の悲劇を皮肉たっぷりに描いた『浮気な家族』(2003)、朴正熙大統領射殺事件を描いた『朴大統領暗殺』(2005)を発表。スカンダラスな題材が多いが、その社会を見る冷静な目と知性を感じさせる作風は内外で高く評価されている。『懐かしの庭』は第5作目。次回作として、フランス資本によるバリ・ロケ作品『パリのとある女』を準備中。



『ラジオ・スター』

東京・名古屋・大阪初公開

韓国／2006年／115分／35mm／1.85:1／color／Dolby SRD／字幕翻訳 大塚毅彦
英題 Radio Star
監督 イ・ジュニク
出演 バク・チュンファン、アン・ソング、チェ・ジョンユン

人生に敗れた中年男二人の心温まる再生の物語。落ち目のロック・スター、チェ・ゴン、古女房のマネージャー、バク・ミンスのはからいて、ローカル・ラジオ局のDJを始める。当初全くやる気のなかったチェ・ゴンだが、ふとしたことがきっかけで彼の番組は人気沸騰。ソウル凱旋の話が持ち上がる。『王の男』のイ・ジュニク監督とスタッフが再集結し、80年代から韓国映画を支え続けた黄金コンビ、バク・チュンファンとアン・ソングが4回目の共演。新旧韓国映画ファン全ての期待に応える人情味あふれる逸品。



イ・ジュニク 『ラジオ・スター』監督

1960年生まれ。世宗大学絵画科卒。1992年にシネ・ワールドを設立。1993年、同社製作による『キッド・コップ』で監督デビュー。その後プロデューサーとして『SPY リー・チョルジン 北朝鮮から来た男』(1999)、『アナーキスト』(2000)、『達磨よ、遊ぼう!』(2001)、『達磨よ、ソウルに行こう!』(2004)、『とかけの可愛い嘘』(2006)などを製作。2003年、『黄山ヶ原』で10年ぶりにメガホンを取り監督業に復帰。以降『王の男』(2005)、『ラジオ・スター』とヒット作を連発する。次回作は今秋韓国公開予定の『楽しい人生』。



『青燕』

名古屋・大阪初公開

韓国／2005年／133分／35mm／2.35:1／color／Dolby SRD／字幕翻訳 根本理恵
英題 Blue Swallow
監督 ユン・ジョンチャン
出演 チャン・ジニョン、キム・ジュヒョク、笛木優子(ユミン)、ハン・ジミン、仲村トオル

実在の女性パイロット朴敬元(パク・キョンウォン)の生涯を描いた航空映画。大正から昭和初期、朝鮮半島が日本の植民地だった時代、空への情熱を燃やす敬元は、モダニズムの花開く東京にやってきて、立川飛行学校に入学。数少ない女性飛行士のトップとして飛行競技大会、歓迎飛行などで活躍する。しかし忍び寄る軍靴の足音は、恋人との仲を引き裂き、政治の思惑は、故郷訪問飛行を熱望する敬元を日本・朝鮮・満州を結ぶ日満親善飛行に旅立たせることになる。



ユン・ジョンチャン 『青燕』監督

1963年生まれ。漢陽大学演劇映画学科、シラキウス大学で映画を学ぶ。アメリカ留学中に3本の短編映画を製作。これらの作品が国内外の映画祭に招待され、その独特な世界観と感覚的な映像が注目を浴びる。2001年、シナリオも担当した心理ミステリー・ホラー『鳥肌』で長編監督デビュー。『鳥肌』は世界中の国際映画祭に招待され、オポルト国際映画祭で審査委員特別賞・監督賞・主演女優賞を受賞するなど、高く評価された。『青燕』は長編第2作。現在、新作『ローマ・パン屋の休日』を準備中。

『ホリデイ』

日本初公開

韓国／2006年／120分／35mm／1.85:1／color／Dolby Digital SRD／字幕翻訳 千香仙
英題 Holiday
監督 ヤン・ユノ
出演 イ・ソング、チェ・ミンス、チャン・セジン、イ・オル、チョアン、ヨ・ヒョンス

ソウル五輪が開催された1988年に起こった、脱獄囚人質立てこもり事件を題材に、公権力の横暴や貧困問題を描き出した社会派エンターテインメント。オリンピックを前に強制撤去される貧民街。それに抵抗し入獄されたチ・ガンヒョクは拳銃を奪って仲間と共に逃亡し、ソウル市内を転々とする生活をはじめ。ガンヒョクが訴えた「有銭無罪、無銭有罪」は、金持ちは裁かれず、持たざる者は罪に問われるという社会の不条理を糾弾した言葉だが、貧富の格差が広がる韓国で、今この言葉が再びはやり始めているという。

ヤン・ユノ 『ホリデイ』監督

1966年生まれ。東国大学演劇映画科卒。カンヌ国際映画祭「国際批評家週間」に招待された前衛映画『ユリ』(1996)で監督デビュー。以後、ロマンチック・コメディ『ミスター・コンドーム』(1997)、学園物『チャン』(1998)、恋愛映画『ホワイト・バレンタイン』(1999)、アクション・ディザスター・ムービー『リベラ・メ!』(2000)、格闘エンターテインメント『風のファイター』(2004)と一作ごとにその作風を変化させている。実話を映画化した『ホリデイ』は長編第7作。最新作『仮面』は2007年夏、韓国公開予定。

